

世界が幸せになる
優しい未来のために



1 エッセイが掲載された冊子を持つ関さん 2 JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテストの表彰式
3 WFPチャリティエッセイコンテストでスピーチする様子

宇都宮大学
共同教育学部附属中学校 3年
関 桃羽さん

プロフィール

昨年応募した「WFPチャリティエッセイコンテスト2025」、
「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2025」
で立て続けに最高賞を受賞し、支援の輪を広げるべく勉強、活動
をしている。

昨年12月に開催された「WFP
チャリティエッセイコンテスト
2025」、JICA国際協力中
生・高校生エッセイコンテスト
2025」において、本市在住の
関桃羽さんが、いずれも最高賞と
なる最優秀賞、文部科学大臣賞を
受賞しました。

2つのエッセイコンテストは、
どちらも開発途上国の現状と日本
の関わりを理解し、「世界の幸せ」
について追求する中で、自分がど
のように行動すべきかを考えるこ
とを目的としています。多数の応
募の中から、最高賞を受賞した関
さんは、受賞について「エッセイ
を通じて発信した自分の思いが多
くの人に届いたと感じ、うれし
かった」と笑顔で振り返ります。
小学生の頃からバドミントンに
打ち込んでいましたが、膝の不調
でプレーに影響が出るようになり
思い悩むようになった時、授業
で「難民」について勉強する機会
がありました。これまで知らな
かった世界の問題と自分の恵まれ
た境遇を比較し、衝撃を受けまし
た。「もっと広い世界を知りたい
と思うようになった」と、WFP
協会のセミナーや難民プロジェクト
チームの講座、勉強会やフー

ドライブ活動にも積極的に参加す
るようになりました。実際に活動
に参加することで、支援とは、物
理的に助けることだけを指すので
はなく、寄り添うことも大切であ
ると、学びを深めていきました。

活動を通し「中学生の今の私に
できることは何かを考えるように
なった」と話す関さんは、通学す
る中学校でもフードドライブ活動
を行えるよう企画を立案するなど、
着実に歩みを進めています。「自
分と同年代の人たちが直面する問
題を知り、居ても立ってもいられ
なかった。自分の行動や思いを発
信することで、多くの人の意識を
変えたい」と希望を語ります。

今年の夏休みは、JICAエッセ
イコンテストの副賞としてベトナム
に海外研修に行く予定の関さん。
日本との違いや現地が抱える課題
の解決に向けたJICAの取り組み
を間近で視察・体験できるこの機
会に、さらに多くを学び、未来へ
還元できる一助になりたいと目を
輝かせます。

将来について関さんは「法の観
点から途上国支援に関わりたく
いめ弁護士になりたい」と夢を語り
ます。優しい未来へ向けた歩みは、
まだ始まったばかりです。